運命ってこういうこと

叶夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
運命ってこういうこと

【Ｎコード】
Ｎ２１３８Ｚ

【作者名】
叶夢

【あらすじ】
うぅぅぅ～プロローグ！！！

プロローグ

あなたは心にしまっておかないといけない恋ってしたことありますか？

その恋って…

切なくて
苦しくて
つらくて

それでも

甘酸っぱくて
愛おしくて
恋しくて

だからこそ恋がしたくなる

だからこそ

会いたい気持ちでいっぱいになる

だからこそ

自分の気持ちをさらけ出したくなる

今まで恋をしたことがないひと
恋をしてもうまくいかないひと

それは怖いだけ
恋をして傷つくのが怖いの

その気持ちは無駄じゃない

遠距離恋愛より切なくて
近距離恋愛より深い

ユウの恋物語…

出会い

「うわぁ！」

モンスターハンターｔｒｙ
兄貴に勧められてやり始めたゲーム

今日街って言うオンラインゲームに取り組もうとしていた
兄貴にはするなと言われていたけど、最近は兄貴に対して反抗期の
あたし、ユウ

武器の使い方、チャットの仕方は兄貴から技を盗んで勉強してた

「タイプ…？」

さっそく壁
自由タイプ、新人タイプ、達人タイプに求人タイプ

「なにそれ…」

なんとなく選んでしまった求人タイプ
この行動が運命の道筋だったとは…

『こんにちは♪』

何も知らないあたしはテキトーに進めていった

『こんにちは！君ＨＲ１だね…』

このゲームにはＨＲと言ってランクが付けられていた

『正直迷惑だと思うから移動した方がいい』
『すみません…何も分からなくて…』
『とりあえず新人タイプに行ったら？』
『はい…ありがとうございます』

いわれるがまま行動してみる

『こんにちは』

人がたくさんいる街を選んだ

『こんにちは』
『こんにちは～』
『ＨＲ１かよ』
『すみません…初心者なので…』

また新しいひとが来る

『こんにちは！』
『こんにちは～』
『移動できたんだね、よかった』

「なんのこと？」

『よかったら一緒に育てるか？ケイトさん』
『本当ですか？お願いします』
『俺はＲＥＯＮ。レオンって読むから』

『はい！あたしＫＥＩＴ。ケイトです』
『行きますか～？』

他のハンターからクエストの誘い

『あ、やめときます』
『あたしも…』
『了解しました』

街は急に静まり返った

『じゃあとりあえず武器の扱い』
『はい』

そう言ってチケットのクエに行った

『スラッシュアックス。剣と斧になる武器』
『お願いします』

そこからずっとずぅっと教えてもらってた

『そろそろ時間だから帰ろっか』
『はい』
『だいぶ上達したと思うよ』
『ありがとうございます』
『あしたも来ていいか？』
『もちろんです！お願いします』

オンラインの怖さってのを知らないあたしは何も考えず承諾
クエから帰ると誰一人いなかった

『じゃ』
『はい』
『さようなら～』
『さようなら！』

ここからあたしの恋物語が始まった…

きゅん♪

『だいぶ上手くなったね』
『ありがとうございます』
『じゃあそろそろモンスター狩りにでも行くか？』
『え！いいんですか？』
『もちろん。慣れないとずっとできないからね』

教え方が上手いレオンさんに連れられて何回目かのジャギィ狩りに行った
レオンさんに会って約一週間

『おねがいします♪』
『よろしくお願いします』

そんな感じではじまった

「あ…まぁた取られてる…」

兄貴が帰って来る

「お先」
「そこは剣やろ！なんでやねん！」
「あ！」

コントローラーを奪われる

《狩猟が成功しました》

「あ…」

「あ…終わった…」

「兄貴！なんちゅうことを！」

「ってか、またこの人とやってんの？ダチ？」

「いや、モンハンの先輩」

「そんなすぐ信用したらあかんで」

兄貴の言葉にドキッとする

「オンラインは顔もなんも分からんし…だいたいその人だって画面の前で『女の子やぁ♪』ってニヤついてるかもしれんで？」

「別にあわへんからいいんちゃうん」

「ばか！そうゆう問題ちゃうわ！」

『おつかれさま！…なんか後半すごく上手かったね』

『おつかれさまでした！兄貴に奪われて…』

「おいユウ！それも個人情報」

「大丈夫やって…」

『そうなんだ、ケイトさんもすぐそうなれるよ』

『ありがとうございます』

「ユウ、もし武器当たったら謝らないと礼儀知らずって思われるからな」

「分かった～」

重そうな荷物を抱えてテレビの前を離れる兄貴

『もう一回行く？』
『お願いします！』
『はい』

兄貴にいわれたことを胸にまた同じクエをする

『お願いします』
『よろしくお願いします』

ずんずん進んでゆく

『どこかな？』
『いないですね』

二回目はなかなか見つからなかった

『千里眼持ってる？』
『なんですかそれ』
『それを使うとどこにいるか分かるんだ』
『もってまうですね』

打ち間違い…

『まってまうですねw』
『間違えました…』
『かわいいw』

「…え…」

かわいいなんて言われるの何日ぶりだろう…
兄貴の言葉がちょっと不安を襲う

「あ！」

やっと見つけたモンスター
武器を出したその瞬間、レオンさんが前を走った

『ごめんなさい』
『気にするな』

きゅん♪

いやいやいや！！なにさっきのきゅん♪は！

そんなことを考えつつ…

《狩猟が成功しました》

『おつかれさまでした』
『おつかれさま』

――きゅん♪ってなに…？

『俺時間だから落ちます』
『はい！ありがとうございました』
『おつかれさま』
『おつかれさまです！』

レオンさんが出てから1人になった

…何歳なんかな…どこの人なんかな…どんな顔なんかな…

…どんな声なんかな…中学生なんかな…？

いろんな疑問が浮かび上がる

もしかして…

もしかすると…

オンラインゲームで…

恋…？

んなわけないない！！

と、自問自答しながらその場を出た

愛と恐怖

「はやく家帰りたいぃ…」

そのときあたしは小学生で、学校でダダこねてた

「なんでそんな帰りたいん？」

「はよゲームしたい」

そのとき仲の良かったまりちゃんにはすべてを言っていた

「あぁ、レオンさん？」

「そぉ！もうはよ会いたい」

「それまずくない？恋愛感情入ってる」

「それでもいいかぁっ…って」

「えぇ！危なくない？」

「大丈夫」

でもそのときあたしにはクラスに好きなひとがいた

「ユウ！」

「んあ？！」

その人は親友にも近い存在で相談とかいっぱいやり合ってた

—でも…

最近優先順位が逆になってた

レオンさんがいいから一緒の班じゃなくていいやとか
レオンさんがいいからあの子の側にいなくていいやとか
正直その子のことよりレオンさんのことで頭いっぱいだったし

―「やっふぅ！！」

やっと一日を終えて直テレビの前へ

「ただいまぐらい言いなさい！」
「だだい？ぁ～♪」
「あ、今日出かけるから」
「え〝―…」
「兄ちゃんの病院行ってそっから晩ご飯食べるから」
「残ったらあかんの？」
「だから！わからずややなぁ…晩ご飯食べるって言ってるやろ？」

早くしたいのにぃ…

そんなこんなで薄暗い病院行って帰って来たのは２０時
一生懸命おねだりして、一時間の約束で始めた

『こんにちは！』

って言っても誰もいない

来おへんのかなぁ～って思ってたら

『こんにちは！ってかこんばんは！』
『こんばんは！来ないかと思ってました…』

『来るよ♪来ない方がよかった？』
『そんなわけないです！』
『よかった♪』

来てほしかったって分かってるくせに…

って…あたしマジで本気で好きになっちゃってるかも！！！

『今日一時間しかできないです』
『そっか、じゃあ今日は俺の部屋に案内しちゃおうかな♪』
『部屋ですか』
『ついて来て！』

そういって連れてこられたのはゲストハウスだった

『すごい！』
『まだ上の階級があるんだけどね』
『十分すごいですよ！』
『テンション上がってるね♪』
『はい！すっごい楽しいです！』
『クエ行きませんか～』
【本当にかわいいw】

今頃だが、チャットには1人のハンターに対してメッセージを送ることができる（【】内に表記）

【かわいくないです。本当のあたしなんて】
【見た目がすべてじゃないよ】
【でも…】
『お～い！！ケイト毛糸ケイト！クエ行こうぜ！！』

知らないやつからの誘い

【友達？】

【知らないです】

『行きたくないから…』

『死ね！！！』

『なんて事言うんだよ！』

『正義のヒーローレオン登場！！』

『ケイトさんに謝れ！』

『偽善者めがぁぁぁ！！ｗｗｗｗ』

『ひどい…』

「何こいつ！！！」

『ケイトさん、出ようか』

『はい』

『にぃげるんだぁ！』

『しつこいな』

『２人で死ね』

そのまま２人でその場を離れた

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2138z/

運命ってこういうこと

2011年12月14日22時48分発行